

第34回 由利本荘市行政改革推進委員会

開催日時 令和5年8月7日(月) 午後1時30分～午後2時30分

開催場所 由利本荘市役所 5階 第8会議室

出席委員(敬称略)

委員 水野 衛(秋田県立大学システム科学技術学部 学部長)

委員 小笠原 公毅(秋田しんせい農業協同組合 代表理事専務)

委員 鈴木 貴大(由利本荘市商工会青年部 部長)

市出席者及び事務局

総務部長 小川 裕之

総務部行政改革推進課課長 小番 正明

総務部行政改革推進課参事 森 大樹

総務部行政改革推進課主査 鈴木 顕

※「1. 開会」から「5. 案件(2)」までは事務局が進行。「5. 案件(3)」以降は委員長が進行。

1. 開会

2. 委嘱状交付

3. あいさつ

- ・小川総務部長よりあいさつ

4. 委員及び事務局紹介

- ・改選後初めての委員会であるため、事務局より紹介(委員～事務局)。

5. 案件

(1) 行政改革推進委員会について

- ・事務局から資料に基づき説明

【質疑応答】

なし

(2) 委員長及び副委員長の選任について

- ・事務局案を提示し選任(◎委員長 水野 衛 委員、○副委員長 小笠原 公毅 委員)。
- ・水野委員長より就任のあいさつ

(3) 第4次行政改革大綱実施計画の進捗状況について「資料2」

- ・事務局から資料に基づき説明

【質疑応答】

(質問) 新創造ビジョンについて、計画期間が5年だったと思うが、時代背景によっていろいろな課題が出てくる中で、1年おきにモニタリングしてブラッシュアップを行うなどしているのか。

(回答) 新創造ビジョンは5年単位であるが、ビジョンに基づく項目として総合戦略があり、いろいろな施策があがっており、それについて施策等効果検証委員会を開催して毎年度、進捗状況、効果等を検証している。

(質問) 市長が代わってから内容は変わってないようだが、変わることはないのか。

- (回答) 今の創造ビジョンが前・後期5年の10年の計画で、市長が代わる前に出来ており、ビジョン自体はそのまま活かす形になっている。ただ、その中で何に重点を置くかという取り組み方は変えている。計画は前・後期各5年だが、この後、市長の任期4年ということもあるので、計画期間の5年を4年にして、市長の各政策を反映できるような作りに変えていくよう、取り組んでいるところ。
- (質問) (取組状況について) 項目でいうと68%ということだが、冒頭の挨拶にあったように、やはり財政が厳しく、健全化したいというのがあると思うが、財政面で言うとどのくらい効果があったのかも気になるところで、財政の観点からも検討した方がよい。
- (回答) 施設に関して言えば、公共施設等総合管理計画というものがあり、その中では例えば施設の年間維持費がどのくらいか等、推計している。個々の事業についてまとめたものはないが、後でお示し出来ればと考える。
- (回答2) 第3次大綱の5年間の効果額としては、適正な人事管理による人件費の抑制や、一般財源の縮減等により15億円くらいとなっている。第4次大綱については今後確認していく。
- (質問) 事前に状況を見ていて、やりにくい項目はなかなか手がついていないのかなと思う。1つは、「予算査定結果の公開」が「中止」になっていることと、もう1つは、「人事評価制度の推進」が「△」になっていることについて、理由や実施しにくい障害などがあるのか。
- (回答) 予算、決算状況は問題なく公開しているが、編成過程の査定結果を公開することについては、所管課で検証し、外部から見たときに、誰がどう査定したという事の公開の意味が、あまり無いことから中止したもの。人事評価については、昇任や昇格に反映させるには職員組合との協議も必要であり、「△」で停滞気味ではあるが、進めている。
- (質問) 評価制度も、必ずしも業績主義がいいとも限らないので、そこは行政として最善の方策を見つけていくことが大切と思う。ただ、計画したものの、やりづらから「中止」とか進まないとする、大綱として出した意味が無くなってしまう。
- (回答) 人事評価については、段階的に進めており、例えば勤勉手当への反映は拡大してやっているの、後退したわけではない。
- (回答2) 今の第4次大綱が3年目となっており、次の第5次に向け、今年度、4次の進捗をまとめながら第5次にどうしていくかの検討に入っていくことになる。その中で、さきほどご質問のあった効果額についても検証し、第5次の効果額等をどうしていくかということも、皆さんで見ていただく流れになる。さらに、第4次はコロナとバッティングしたため、様々なところで停滞した。それも踏まえて第5次にどのように持っていくかということも入れ込んでいきたい。
- (質問) 市観光協会の法人化について、だいぶ以前からの話で、総会で、法人化しても抜本的に変わらないような説明を当時は受けた。しかし、収入事業をどうするか、市内のお祭り、例えば、先日の由利原の花火大会に商工会青年部として出店したが、駐車場等いろいろなスタッフに市職員がおり、法人化するとそれも別になる。各地域の祭りは、市職員が手伝っているから成り立っていると感じる。先日開催した青年会議所の菖蒲カーニバルも運営スタッフが足りずしんどかった。観光協会がしっかり関わっている祭りは、中で動いている人より市職員のほうが大変なように見える。これが法人化されれば、祭り等いろいろな事業が運営できるのかと思うが、いかがなものか。
- (回答) 設立準備委員会の協議の中で、法人化後も、市として必要な関わりを持っていくということで議論はされているようである。市職員の派遣や補助金についても調整しているようである。
- (質問) 今の説明だけ聞くと法人化する意味があるのかと思う。全然変わらないのではないのか。市が厳格な計画資料等を出しているとは思いますが、総会の時等、法人化についてはふわっとした説明しかされなかった。今の説明のみだと、体系は変わらないし、最初のうちはサポートがあると思うが、

ずっとサポートをされ続けていないと運営できなさそうに思う。

(回答) 他どころの成功例を見ると、大概は法人化している。やはり、本市は観光協会という名前でも実際は市職員がやっており直営と変わらないし、営利を追求することがない。うまくいっているところでは、自分たちで収益を上げる事業をやったり、広告で収入を得るなど、いろいろな工夫をしているところがたくさんある。そういった事例を参考にして、自立できるようなやり方を考えているところだと思う。市役所の事業のようになっているので、すぐは難しいと思うが、新しい経営感覚を持った人を入れるとか、スタッフを募集するなどして、そちらのほうに近づいていけることが必要だし、市としては、観光協会で行っているから無関係ということにはならない。

(意見) 法人化したからこそ出来ることとしては、さきほど経営感覚のある人を入れると言っていたが、その辺りの法人化のメリットがはっきり示されれば、皆さん納得されるのかなと思う。

(回答) 観光協会の法人化について第4次大綱より前から話があったが、課題や方向性をはっきり出来ないことが、延び延びになっている理由だし、さらにコロナで隙間が空いてしまった。行革サイドとしては、論点をはっきりして進めてほしいと思っている。また情報があればお知らせしたい。

(4) 第三セクターの経営改善計画の進捗状況について「資料3」

・事務局から資料に基づき説明

【質疑応答】

(意見) 施設を何とか維持していきたいという思いがある中で、指定管理の受け皿としては、傷が大きくなならないうちに、ダメなところは新しいところに変えて、やってもらいたいと思っている。

(質問) 道の駅は休憩するためにあると思うが、道の駅に魅力があれば、そこを目指してくる人もいらっしやる。象潟の道の駅がその最たる例である。本市では企業誘致をやっているが、その飲食店バージョンのように有名店を道の駅のテナントに入れる等は考えていないのか。

(回答) 道の駅は様々な魅力の作り方があって、象潟のねむの丘では様々テナントを入れたり、モンベルの店舗を作ったり、アプローチの仕方はいろいろあると思う。テナントに関しては、指定管理の場合、募集は指定管理者が行うことになるので、市は出来ないが、岩城道の駅は指定管理者が代わり、テナントを含めて見直すということでだいぶイメージ・チェンジしてきている。今までと同じことの繰り返しではうまく行かなくなっている事実を受け止めながら、指定管理者と話しをしていきたい。1つの市で5つの道の駅を差別化するのはとても難しい。

うまくいっているところ、いっていないところがあれば、お互いもっと研究してもよいと思うが、そこもなかなか進まなかった。市が関わって来た中で差が生じているのは決してよくはない。

(意見) 指定管理とはいえ、やはり市も関わってはいるので、企業誘致の件等も含めて、助言やサポートなどあったほうがよいと思う。

(意見) 今のお話しの中で、旧市町の名残を引きずっているような感じも受けたので、せっかく合併したので、やはり一つの市が管理するメリットが出るような形が望ましい。また、「何となく出してもらって検討」の繰り返しだと進まないのでは、段階を踏んで進めることが出来るような基準が必要だと思うがいかがか。

(回答) 昨春、「第三セクターの見直しに関する指針」を作ったが、それが基準となる。今の経営改善計画の提出が第1段階で、計画がうまくいってくれば問題ないが、ダメな場合は、会社として考えてもらわなければ、というのが第2段階。計画自体は3年間だが、初年度からこげてしまい、かなり厳しい。それを受けて、2年目となる今年度からは、かなり厳しい立ち位置でいかないともっと悪くなってしなうと、三セク各社とお話させていただいている状況である。

(質問) そもそも改善計画が出せるかどうか、また、計画に従って改善したかどうかを基準となる。それ

を待って次の段階へ進むということか。

(回答) そうです。

(5) 公共施設等総合管理計画の推進について「資料4」

・事務局から資料に基づき説明

【質疑応答】

(質問) 亀田体育館と、立志館は市民に説明していないとあるが、何か理由があるのか。

(回答) 資料の今年度取り組む施設については、管理計画の中でも手を付けられないもので、それを前倒しで進めないと間に合わないという危機感のもとにリストを作成している。このため、説明を今後行うところもある。亀田については同じような体育館が二つ並んでいる。立志館は用途が限定され、最近の利用がほぼない状況。朴木沢放牧場の施設はまったく使われておらず、廃止を進めていくものである。

本市は他市に比べて施設数がかかなり多く、同じ用途の施設が×8ある状態で、老朽化した施設がこれまで残ってしまっている。結果として維持費は変わらずかかっているが、人口減少、高齢化により利用者のニーズに変化が起きており、それに対応しないと1地域だけでもかなりの経費がかかる。総合管理計画の試算では、もっと大切なインフラ部分、学校、道路、水道等の維持に支障を来すことになる。本当に必要なところは予算をかけ、そうでないところは市民のご理解をいただきながら整理していく必要がある。道の駅についても、市内に5箇所あるが築30年を超えようとしており、すべての施設を直すのは難しい状況。

まずは、廃止できるものを廃止して進めていきたい。

(質問) 市町村合併したので、旧市町村で1個ずつあったものをそのまま維持していたら、合併した意味がないので、そこは優先順位をつけて進めるということか。なかなか住民の意見や反対もあって難しいとは思いますが。

(6) 指定管理者制度導入・更新施設について「資料5」

・事務局から資料に基づき説明

【質疑応答】

(質問) 公募して埋まるものなのか。競合はするのか。

(回答) だいたい1社からの応募はある。最近、競合するところが多くなってきている。

6. その他

・事務局より、次回開催予定等を説明。

7. 閉会